

美術科学習指導案

1 題材名 「ご当地キャラをプロデュース！」

2 題材について

(1)題材観

生徒と接している中で、「美術は必要じゃないでしょ。」「無くても困らないよ。」という生徒の声がよく聞かれる。今回、生徒にとって身近な存在である「ご当地キャラクター」を題材として扱い、千葉県のご当地キャラクターのデザイン、グッズ制作を行うことで、生活の中の美術の役割、必要性に気付かせたい。

本題材では、チーバくんやsuicaのペンギンなどの身近なキャラクターの鑑賞を導入として行う。そして、「なぜ魅力的に感じるのか」、「どうすればみんなから愛されるキャラクターになるのか」ということを、美術の視点で考えながらデザインの構想、制作活動を進められるようにする。身の回りにある様々なキャラクターについて改めて美術の視点で考えることにより、生活や社会の中の美術のはたらきに関心を持ち、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度を育みたい。

また、ご当地キャラクターの地域を千葉県に限定することで、改めて自分の生まれ育った地域について考え、関心をもって生活していけるようにしたい。

(2)生徒観 (男子18名、女子15名 計33名)

1学年において、友人の作品(ばらばらマンガ)を相互鑑賞した後に、そこで学んだことを自分の作品に取り入れる活動を行った。作品完成後に行ったアンケートの中で、「友人の作品を鑑賞してから制作を行った方が制作しやすかった」、「作品の完成度が上がった」と答えた生徒が多く、互いに学びあうことの重要性を感じた。

昨年度の反省を踏まえ、本題材では友人と意見を交換し合う場を設定し、共に高めあうことのできる環境づくりを心掛ける。構想の途中に相互鑑賞の時間「意見交換会」を位置づけ、自分の工夫した点を発表したり、他者のよさを認め合ったりすることで、自己肯定感と制作への意欲を高め、完成に向けて制作をしていけるようにしたい。

また、資料収集に関しても、昨年度まではコンピュータ室を使用して個人で調べる形だったが、今年度からは図書室を使用し、友人と情報を共有しながら、より豊かなアイデアを発見していけるようにしたい。

(3)指導観

本題材では、平面で考えたデザインを立体に表現する力が必要となる。2学年の生徒は、平面で考えたデザインを立体に表現する活動をするのが初めてなので、「前面・右向き・左向き・背面」の四方向から見たデザイン画を事前に描かせることにより、キャラクターの奥行きを捉えさせ、立体的なグッズを制作していけるように配慮して指導を行っていく。

また、グッズ制作の材料は、赤・黄・青(色の3原色)と白を合わせた4色のカラー粘土を使用す

る。1年生の色彩学習で学んだ色の3原色の知識を振り返りながら、生徒が既習内容を生かして制作を進められるようにしたい。

3 題材の目標

- (1) 千葉の良さを伝えるにはどうしたらよいか考え、創意工夫しようとする。 【関心・意欲・態度】
- (2) 試行錯誤を繰り返し、汎用性を意識して構想を練ることができる。 【発想や構想の能力】
- (3) 自分の考えた平面のデザインを、色の3原色を混色した粘土を用いて、立体的に表現することができる。 【創造的な技能】
- (4) 自分の作品について説明し、友人の作品について意見を書くことができる。 【鑑賞の能力】

4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
千葉の良さを伝えるにはどうしたらよいか考え、創意工夫しようとしている。	試行錯誤を繰り返し、汎用性を意識した構想をしている。	自分の考えた平面のデザインを、色の3原色を混色した粘土を用いて、立体的に表現することができる。	自分の作品について説明し、友人の作品について意見を書くことができる。

5 指導計画 (全10時間)

時	○目標	・学習活動	評価の観点			
			関	発	創	鑑
1	○導入【説明、調べ学習】 ※図書室使用	・キャラクターデザインのポイントを知る。 ・千葉県について調べる。	○			
2	○構想【アイデアスケッチ】 ※図書室使用	・キャラクターの設定を考える。	○	○		
3	○構想【意見交換会】	・意見交換をし、キャラクターのデザインを見直す。	○	○		○
4~5	○構想【企画書作成】	・最終決定したデザインについて企画書を作成する。		○	○	
6~8	○制作【グッズ制作】※本時	・カラー粘土でキーホルダーとマグネットを制作する。	○		○	
9	○構想【プレゼンテーション準備】	・プレゼンテーションの内容を考える。		○		
10	○鑑賞【プレゼンテーション】	・自分が考えたキャラクターを発表する。 ・友人の作品を鑑賞する。				○

6 研究主題との関連

本校の研究主題である、「学習意欲の向上を目指した指導のあり方—共に考え高め合う学習活動を通して—」の「共に高めあう」ことにポイントを置き、制作の途中に「意見交換会」を設け、自分の工夫した点を発表したり、他者のよさを認め合ったりすることで、自己肯定感と制作への意欲を高めさせることにより、主題である学習意欲の向上につなげたい。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

自分の考えた平面のデザインを、色の3原色を混色した粘土を用いて、立体的に表現することができる。 【創造的な技能】

(2) 本時の観点別評価規準

美術への関心・意欲・態度	創造的な技能
準備や後始末に積極的に取り組む。	自分の考えた平面のデザインを、色の3原色を混色した粘土を用いて、立体的に表現することができる。

(3) 本時の展開 (7 / 10 時間目)

過程	○学習内容と活動	○指導や支援の手立て ◇評価
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○企画書、粘土を用意する。 ○制作、片づけの確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○美術係に配布してもらう。 ○前回の授業の進行度合いを確認する。 ○グッズ制作の注意点、評価のポイントを確認する。
展開 (35分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 自分の考えた平面のデザインを、色の3原色を混色した粘土を用いて、立体的に表現する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○道具の用意をする。 <各班で必ず持っていくもの> 水の入ったボウル、ラップ <個人で必要に応じて用意するもの> 爪楊枝、のばし棒、ヘラ ○企画書を基に、構想したグッズ(マグネットとキーホルダー)を制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ラップ、のばし棒、ヘラに班番号を書き、個数を掌握できるようにする。 ○机間指導をしながら、生徒一人一人の制作状況を確認し、悩んでいる生徒にアドバイスをする。 ◇自分の考えた平面のデザインを、色の3原色を混色した粘土を用いて、立体的に表現することができる。 【企画書、制作過程】
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○片づけをする。 ○じゃんけんで勝った人が机の上を仕上げ拭きする。 ○次回の授業内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に片づけの手順を確認し、時間内に責任を持って片づけに取り組めるようにする。 ○作品を乾燥させる場所を整える。 ○粘土を回収する箱を用意する。 ○各机に雑巾を設置する。 ○企画書を回収する。 ○次回の授業内容の確認をする。